

子育てを支える「家族・地域のきずな」

「家族・地域のきずな」フォーラム実行委員会代表
国立小児病院名誉院長

小林登



最近の社会事象をみると、離婚の増加や犯罪の増加と低年齢化、虐待の増加など家族のきずなが破綻した事例が増えています。また、地域社会においても、自分だけが良ければ良いと、豊かな社会でお互いに助け合わなくても生活できるという考え方など、人間関係が薄くなっています。電車の中での譲り合いが減っているのもその一例です。これらは、家族の中での父親の存在、親子や兄弟姉妹などの人間関係を結ぶものが弱くなり、地域でも人々の様々なレベルでのふれ合いが少なくなっていることが大きいです。

家族の中でコミュニケーションを豊かにする遊び、旅行、スポーツや地域社会の中での祭や行事などの様々な取組の活性化が期待されます。特に、家族にとって、子どもを産み育てる場面での母親と父親、親子のきずな、また、子育てを世代間で伝える祖父母の果たす役割もとても大きいです。家族が喜びを共にし、感激を共にする中で、子どもは育ち、また、家族、さらには社会を支える子どもが育って行くのだと思います。

「家族・地域のきずな」を深めるために

内閣府特命担当大臣

上川陽子



家族には様々なかたちがありますが、子どもを家族が育み、家族を地域社会が支えることは、国民のみなさんの等しく求めるところです。今、わが国では少子化が急速に進行していますが、多くの国民は、結婚したい、子どもを持ちたい、という強い願いを持っています。その希望を実現するため、少子化対策をさらに効果的に、総合的に実施することが必要なはもとより、国民一人ひとりが、生命を次代に伝え育んでいくことや家族の大切さ、すばらしさに思いをいたすことが必要ではないかと考えています。

このため、本年度より「家族・地域のきずなを再生する国民運動」を実施することとしました。「家族の日」を11月の第3日曜日、「家族の週間」をその前後それぞれ1週間ずつと定め、この期間に集中して、地方公共団体や関係団体等と連携しつつ、家族や地域のきずなの重要性について思いをいたしていただくため、大会の開催や作品募集、広報などを行ってまいります。

子どもは社会の宝であり、国の宝です。生命を次代に伝え育み、家族の大切さを実感し、共感し合えることを通じて誰もが安心して、結婚し子どもを産み育てることができる社会が築かれることを強く願っています。